



秋田陸運支局長経由  
新整車第3号  
平成13年1月10日

輸送機工業株式会社 殿

新潟運輸局整備部



改造概要等説明書 (改造自動車等審査結果通知書)

- 指示事項：1. 本試作は、製造番号16870の1台限りとする。  
2. 道路運送車両の保安基準第2条第1項(長さ)、第4条(車両総重量)、第4条の2第1項(軸重)、第4条の2第2項(隣接軸重)及び第6条第2項(連結時の最小回転半径)について、緩和認定を要する。  
3. けん引車については、次により検討した。  
車名 いすゞ 型式 KL-CYZ 52V3P (第五輪荷重11t、NR装置無し)

主要諸元比較表 (改造車(試作車)組立車)

項目	標準車	改造車	基準	項目	標準車	改造車	基準
車名	ユソーキ			乗車定員人	けん引車分担	分担	
型式	YPS1571			最大積載量 kg	11000	15000	
自動車の種別	大型特殊			前軸重量			≦ 10 t
用途				前接軸重			隣接軸重
車体の形状	ボルトレーラ			車両総重量		10660	(18t)
燃料の種類				後軸重量		10660	
原動機形式				計		21320	≦ 20 t
総排気量 l				最大安定		1.34	
長さ m	5.255	(≦ 12m)		傾斜角度	右	1.34	一般 ≧ 1.3
幅 m	2.490	≦ 2.5m		左			
高さ m	1.580	≦ 3.8m		前前輪			
軸距 m	1.320			前後輪			
前前輪				後前輪	11R22.5-16PR		
前後輪	1.800			後後輪	11R22.5-16PR		
室内又は長さ m	1.200			積重時			
荷台の内幅 m	2.490			前前輪			
高さ m				前後輪			
前前軸重				後後輪			
後後軸重				割合 %		※ 97.8	
後前軸重	3160			積重時前輪荷重割合			≧ 18, 20 %
後後軸重	3160			リア・オーバーハング		1.105	≦ 1/2 L
計	6320			m			11/20, 2/3
				荷台オフセット		0	
				最小回転半径		※ 2.04	≦ 12 m

能力強度等検討

加速能力		≧ 0.038	車体強度	$\sigma_a / \sigma = 40200 / 2419 \times 2.5 = 6.64 > 1.6$
勾配能力		≧ 0.125	車輪強度	$\sigma_a / \sigma = 53900 / 10454 \times 2.5 = 2.06 > 1.6$
制動能力	降力	N 50 km/h ※ 18.0 m	操縦装置強度	$\sigma_a / \sigma = \dots > 1.6$
	空気圧	490 KPa	緩衝装置強度	$\sigma_a / \sigma = 132300 / 37648 \times 2.0 = 1.75 > 1.6$
回転数	Nc/N	=	制動装置強度	$\sigma_a / \sigma = 58800 / 19459 = 3.02 > 1.6$
強度	$\sigma_a / \sigma$	=	連結装置強度	$\sigma_a / \sigma = 40200 / 5235 \times 2.5 = 3.07 > 1.6$

注1. (改造車・試作車・組立車)の欄には、該当するものを○で囲むこと。  
注2. 能力強度等検討欄は、該当しないものは、省略したものを×を記入すること。  
※印はけん引車、いすゞKL-CYZ 52V3Pとの連結時を示す。

改造等の概要

目的	本ボルトレーラは長尺物輸送を目的として製作されたものである。
車体及び車体	フレームは2本のI型断面の中梁を前後に貫通させ、これにアーク溶接にてクロスメンバーを結合した梯子型フレームである。フレーム上に9mm鉄板を張り、その上に12mm鉄板と木材とを組合わせて成型したターンテーブルを取付けて車体を構成する。
原動機	
動力伝達装置	
走行装置	車輪は全浮動方式で左右各々に2個の円錐コロ軸受けによって支えられている。車輪自身はフレーム中央部下面に取付けた懸架装置に固定されタイヤから伝わる回転は円錐コロの入った軸受けに伝わる構造である。
駆動装置	
制動装置	空気制動であって主制動と従車制動よりなっている。主制動は内部拡張式による全車輪制動で非常時には自動的に制動できる構造である。従車制動はマキシチャンパーに内蔵されたスプリングを使用し空気を排出してスプリングの力により制動を得る装置である。ABS装置は取り付けず。又、中期ブレーキ規制対応のものである。
操縦装置	フレーム中央部左右両端にブラケットにて支持されたリーフバネ装置を取付ける。このバネの中央部に車輪を取付けた構造である。
連結装置	伸縮式連結パイプが設けてあり、積載物が比較的短い場合はこの先端の連結環をけん引車の後端に設けた連結装置に連結して使用する。
懸架装置	

注 変更のない事項については、斜線を記入すること。